



さいたま市立宮原小学校 学校だより



令和7年11月28日 第8号

学校教育目標

・たがいに努める子(やる気)・たがいにきたえる子(元気)・たがいに手をとる子(勇気)

恕

井 上 雅 史

2学期が始まった頃の猛暑続きがどこへ行ったのか、寒い日が続いています。今年は秋がなかったなどといわれていますが、思い出すと、昨年と同じことを言っていました。気候から季節感を感じとることが少しずつできなくなっているように感じます。ですから一層、様々な生活の場面での季節感は大事にしていきたいなと思っています。2学期も残すところあとわずかとなりました。ここまで、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動にご理解をいただき、そして子どもたちを温かく優しく見守っていただき、誠にありがとうございました。

さて、下の四角の中は、昨年度も紹介した論語の一説です。私は、前任校の時代から、毎年1回はこの内容について学校通信に載せてきました。多くの方へは既に一度お知らせしたのですが、知っている方は改めて、知らない方はぜひこの機会に触れて味わっていただければと思います。

子貢(しこう)問うて曰(いは)く、一言(ひとこと)にして以(も)って身を終るまで之(これ)を行(おこな)う可(べ)き者有(あ)り乎(か)。

子(し)曰(いは)く、其(そ)れ恕(じょ)か。己(おのれ)の欲(ほっ)せざる所(ところ)を、人に施(ほどこ)すこと勿(な)かれ。(衛霊公二四)

(訳)：子貢がたずねた。「人間として一生貫き通すために大切なことを一つの言葉で表す言葉がありますか」

孔子は「それは『恕』ではないかな。自分が人からされたくないことは、他人に対して決して行ってはならない」と答えた。

「恕(じょ)」とは人に対しての思いやりの心のことです。相手の立場を自分自身に置き換えて、相手の思いやる感覚とも言えます。ここでは「他者への感謝を感じ、他の者に対して気遣い、不愉快な気持ちにさせない、そういった心配りがとても大切である。」と孔子は説いているのだそうです。

人は、社会の中で大勢の人とお互いに助け合い、迷惑を掛け合いながら生活しています。自分が直接知っている人だけでなく、沢山の名も知らない何処かの誰かとも関わり合って、今の生活が成り立っています。しかし、デジタル技術の発展とともに、人と人とのかかわり方は大きく変化してきました。だからこそ、人とのつながり・人とのかかわりについてしっかりと考え、大切にしていかなければいけないのだと思います。

11月25日(火)の朝会の時間から、本校で「ありがとう集会」を行いました。地域や校内で日頃お世話になっている方々をお招きし、児童から感謝の気持ちを伝えました。参加して下さった皆様からも、お一人ずつお話をいただきました。そのお話の中で「元気にあいさつをしてくれることがとてもうれしい。」「みんなのあいさつから元気をもらえる。」という内容が多くありました。心の中で思っているだけでなく、きちんと言葉や態度に表して相手に伝えることの大切さを、児童とともに改めて実感したひと時でした。(翌日の朝の校門では、「おはようございます」の声がいつもより大きく、多くなったように感じました。)

未来に生きる子どもたちは、この先の人生で困難や課題にぶつかることと思います。それらを乗り越え、解決し、豊かに生きるためには、多様な背景をもつ人々とコミュニケーションをとり、互いを認め合い、協働して課題に取り組むことが必要だと言われています。そのためには、「恕」の精神とともに、様々な場面・様々な方法で自分の思いや考えを表現し、正しく周囲に伝える力を育むことが必要でしょう。子どもたちが豊かな未来を過ごす力を身に付けることができるよう、本校では今後も一人ひとりの子ども達に丁寧にかかわってまいります。

～あいさつの言葉交わしていますか～「おはよう・おやすみなさい」「いただきます・いってらっしゃい」「ただいま・おかえりなさい」